

3. 松戸市立博物館の現状と課題

計画策定にあたり、まず6つの視点から現状と課題を分析し、整理しました。

(1) 館蔵資料

現状	課題
<p>松戸市立博物館ならではの、「松戸ブランド」とも呼ぶべき館蔵資料に恵まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 重要文化財の幸田貝塚出土資料を含む膨大な縄文資料 ② 戦国時代の東葛地域の主、小金城主高城氏関連の古文書 ③ 徳川将軍の御鹿狩関係の絵画 ④ 2,000点余を数える日本各地の郷土玩具 ⑤ 希少な虚無僧の寺、一月寺関係資料 ⑥ 住環境改善の国家プロジェクトの端緒、常盤平団地にかかわる生活資料 ⑦ 300点を超えるシルクロード・ガンダール関係資料 	<ul style="list-style-type: none"> ● これら資料に新たな歴史的・文化的価値を見出し、公開および情報発信してゆく手立てが求められます。 ● 貴重で膨大な資料群を効果的に展示し続けるために、現状とは異なる可変的な展示空間などの工夫を施した展示室のリニューアルが求められます。

(2) 施設

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 展示室の面積やスタジオ・燻蒸庫の完備、分野別の収蔵庫、多目的トイレや車椅子に対応したスロープなど、市立施設として国内有数の規模と内容を持ちます。 ● 永年の資料収集の結果、収蔵庫は飽和状態です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 開館29年を経過し、昨今のインクルーシブデザインの見地からの改善すべき箇所の確認を含め、施設全体に計画的な修繕が求められます。 ● 公開承認施設を目指します。 ● 新たな資料収蔵空間を模索する必要があります。

(3) 運営

方針(2) ICTによる文化財情報の整理・発信

「松戸3万年の歴史」の見どころや最新の研究成果をICTを活用し、様々な方法で発信し、市民と交流していきます。

具体的な取組

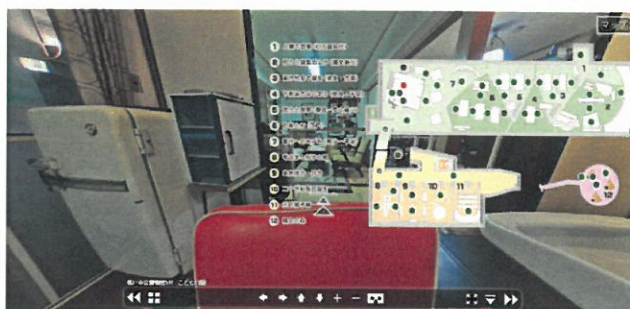
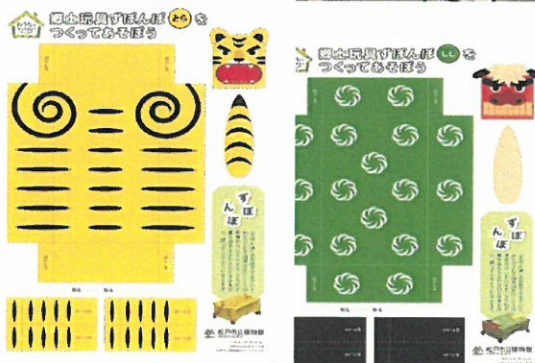
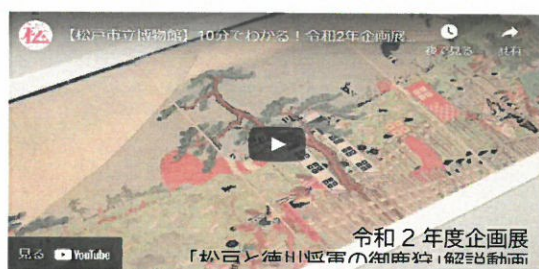
① ICTを活用した迅速・広範な情報発信

紙媒体だけでなくホームページやSNSなどを活用し、市内外にさらに世界に向けて松戸市立博物館の情報発信を行います。

また、デジタルアーカイブの機能を兼ね備え、収蔵する貴重な資料をウェブ上でも検索・閲覧できるデジタルミュージアムの整備を推進します。さらに、文化財の3Dデータ化も進め、公開・活用を図っていきます。

② 工夫を凝らしたアイテムの充実

アイテムや表現方法に工夫を加えながら、さらなる利便性とわかりやすさ、楽しさの充実を図り、ネットワーク環境を活用した取り組みを行います。



おうちミュージアム「ずぼんぼをつくって遊ぼう」

常設展示 VR

方針(3) 県西部の中核館としての位置付け

市外の博物館などとも連携し、県西部の中核館として歴史・文化のさらなる普及・発展を目指します。

具体的な取組

① 歴史・文化の拠点

東京に隣接する好立地に加え、周辺博物館と比較しても充実した規模・内容を誇る当館の長所を活かし、歴史・文化に関する情報発信の拠点としての事業を展開します。

また、市民と重要文化財とのよりよい出会いの場をつくるために「公開承認施設」の認定を取得し、企画展などで貴重な文化財を適切な環境で公開・活用できる施設をめざします

② つなぐ博物館

人類史的な視野による調査研究を行い、その成果を基礎とした企画展等の展覧会、普及活動を展開することにより、松戸を広い視野からとらえなおし、各地域をつなぐとともに、さらには人類の過去・現在・未来をも結びつける視点とその意義を発信します。

